

東北応援ツアー（岩手県コース）に参加して

1978年 経営学部卒業 竹村 公一

被災地の姿を直接見聞きし、また校友会ネットワークの素晴らしさを改めて感じた2日間でした。バスの中での自己紹介、さまざまな地域、年齢、経歴の方が参加されていましたが、共通の思いは被災地を見て、何ができるのかを考え、行動していきたいということでした。市街地の「瓦礫」の撤去は行われているものの、街作り、本当の再建はこれからだと思いました。

交流会でお聞きした現地の校友会の方々の言葉は重みがあり、震災でご苦労された先輩の活動を誇りに思いました。夜の懇親会は大盛り上がりで、世代は変わっても立命館大学としての一体感は変わらないと感じました。

2日目は少しでも地域の活性化に貢献できればという思いで、中尊寺（平泉）を見学しました。

今後とも被災地の支援をするため、互いに情報交換ができるよう参加者名簿の作成を提案したところ、全員の賛同を頂くことができました。今後、近況報告の会を開催するなど、継続した支援につながることをできればと思います。

私事になりますが、フランス人（パリ在住）と長年文通（今はメール交換）をしています。震災当時、特に原発事故のことを大変心配をされ、震災関係の画像、DVD、書籍等を送りましたが、今回参加したツアーのことも報告しておきたいと思います。

校友会でしかできないこのような事業は非常に意義があると思います。東北応援ツアー（岩手県コース）に出席した「1回生」として継続実施されることを切に望みます。

企画を実施して頂いた校友会、事務局、参加者の方に厚くお礼を申し上げます。